

医学教育分野別評価
防衛医科大学校医学部医学科
年次報告書

2022年度（令和4年度）

評価受審年度2017年（平成29年）



医学教育分野別評価 防衛医科大学校医学部医学科 年次報告書
令和4年度

評価受審年度 2017（平成29）年

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
卒業時コンピテンシーを学生、教官、事務官、技官に対し更に周知すべき。	
改善状況	
卒業時コンピテンシーを掲載している教授要目の配布の拡大や、入学時オリエンテーション、「医学導入教育」講義、医学教育ワークショップ等の機会を通じて周知の拡充に努めている。	
今後の計画	
各種研修や講演等の機会を活用して、卒業時コンピテンシーの周知の拡充を図るとともに、周知状況をより一層向上させるための機会を増加していく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1. 3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
卒業時コンピテンシーと初任実務研修行動目標との関連を明確にすることが望まれる。	
改善状況	
厚生労働省臨床研修の到達目標に加え、卒業時コンピテンシーを発展拡張させて初任実務研修行動目標を作成したことにより、相互に一定の関連性を明確化するものとなった。	
今後の計画	
初任実務研修行動目標と卒業時コンピテンシーの内容をより精査し、一層簡明な対応関係を示すことができるよう検討を継続していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

改善した項目

1. 使命と学修成果	1. 4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
医学及び社会の変化に伴い、使命と学修成果の見直しや改訂を行う際には、教育に関わる主要な構成者、特に学生が参画できるようにすべきである。	
改善状況	
防衛医科大学校のカリキュラムを改訂する際、カリキュラム委員会に学生も参加させることにより、学生の意見も随時反映できるシステムに変更した。これにより、学生の意見を取り入れた効果的な教育内容を提供するためのカリキュラム作成が可能となった。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生の学修意欲をより刺激するカリキュラムを編成すべきである。	
改善状況	
全寮制という本校の特性を踏まえた上で、単なる学科における学習のみならず、日々の生活を通じて学生自身の学修意欲の維持・向上を促すカリキュラム編成となるよう、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）において検討を重ね、見直しを行った。	
今後の計画	
学生の学修意欲の更なる向上のため、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）等で引き続き検討を深化させ、カリキュラムに反映させていく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
アクティブラーニングの機会を更に増やすことが望まれる。	
改善状況	
教育の充実、教育への関心、教育技法の習得を目的として、カリキュラムプランニングアウトカムベースを主題とした医学教育ワークショップやFDセミナーを開催し、意識改革を促すことにより、教官等の意欲の向上を図り、実際にアクティブラーニングを取り入れる授業が増えている。	

今後の計画	
<p>教育の質の向上を図るため、アクティブラーニングの機会を増やす積極的・能動的な授業となるよう医学教育ワークショップやFDセミナーの更なる充実・拡大を追求するとともに、これらの機会への学生の参加を促進しつつ、抜本的な学修過程の質的改善を目指すため、ITを用いたアクティブラーニングシステムの導入を検討している。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>行動科学の到着目標、学修方略を明確にし、責任者がオーガナイズして体系的なプログラムを構成すべきである。</p>	
改善状況	
<p>カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で検討し、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議した結果を2020年度からカリキュラムに反映した。</p>	
今後の計画	
<p>今後も検討を深化させ、体系的なプログラムの構成について充実を図っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>①令和4年度 教授要目（行動科学関連）</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>行動カリキュラムの整備を行い、防衛医官のニーズに沿って調整することが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>本領域の重要性を認識し、心理学、哲学、社会学、法学及び倫理学からなる「行動科学」の領域を設置する編成となるようカリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で検討し、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議した結果を2020年度からカリキュラムに反映させた。</p>	
今後の計画	
<p>本校の教育の特殊性に鑑み、「自衛隊における勤務並びに医療環境」及び「日本国内もしくは国際的な場面」を対象とした行動カリキュラムの整備を伴った教授内容となるよう、引き続き検討を行っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>①令和4年度 教授要目（行動科学関連）</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習において経験すべき技能を明示し、それぞれの学生が経験した症例、修得した技能を明示し、それぞれの学生が経験した症例、修得した技能を把握するシステムを構築するべきである。 ・健康増進と予防医学の体験を推進させるべき。診療参加型臨床実習の更なる充実を図るべきである。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が経験した症例、修得した技能を把握するための方法として2021年度からCC-EPOCを導入した。 ・健康増進と予防医学の体験について、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で検討し、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議した結果を2020年度からカリキュラムに反映させた。 ・卒業後自衛隊医官として勤務する自衛隊医療の場で、特に重要な点の一つである更なる診療参加型実習について充実を図るため、病院体験実習の時間を増やす編成となるよう、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）において、現行カリキュラムの見直しを行った。 	
今後の計画	
<p>2021年度から導入したCC-EPOCにおける機能使用を段階的に拡充し、学生が経験した臨床実習中の内容及び習得した技能を的確に把握し、実習の指導及び評価に反映するとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させたい。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
②令和4年度教授要目（病院体験実習） ③CC-EPOC登録数推移（令和4年度） ④症候別CC-EPOC登録症例数（令和4年度） ⑤基本的臨床手技等登録数推移（令和4年度） ⑥令和4年度教授要目（カリキュラム時間別配当用 専門教育科目）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在及び将来において社会や医療制度上必要となると予想されることに関し、カリキュラムが調整・修正されることが望まれる。 ・第2学年・第3学年で患者と段階的に接触する機会を設けることが望まれる。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの変更や調整はカリキュラム委員会が担当し、細部内容は担当教官が情報を入手していることに加え、社会及び医療制度上必要な必要となる情報を的確に入手しカリキュラムに反映出来る仕組みを総合的に判断する組織の整備について、全体的な組織改革と並行して検討している。 ・現在は第1学年の病院体験実習後は、患者に接触する機会が極めて少ないことから、病院体験実習の時間を増やし、段階的に患者と接触する機会を設ける編成となるよう、カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）で検討した上で、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議し、2020年度から第2学年・第3学年でも病院体験実習をカリキュラムに導入した。 	

今後の計画
現在及び将来において、社会や医療制度上必要となる事項を迅速かつ的確に捉えるべく、医学教育学専任教授を2021年度に採用した。また、組織を整備するために必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。
現在の状況を示す根拠資料
②令和4年度教授要目（病院体験実習）

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 6 プログラムの構造、構成と教育時間
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
体系的な行動科学のカリキュラムを構築し、その他の科目との関連を明確にして、学生と教官に明示すべき。	
改善状況	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）において、本領域の重要性を認識し、心理学、哲学、社会学、法学及び倫理学からなる「行動科学」の領域を設置する編成となるよう、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議した結果を2020年度からカリキュラムに反映させ、教授要目に記載した。	
今後の計画	
カリキュラムの効果的な改訂に反映させるべく委員会を活性化させるとともに更なる充実を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
①令和4年度 教授要目（行動科学関連）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 6 プログラムの構造、構成と教育時間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
基礎医学領域においては、水平的統合が開始されているが、統合の範囲を広げ系統的な統合教育を推進することが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム委員会ワーキンググループ（作業部会）において、有機的に水平統合が機能する編成となるよう、カリキュラム委員会、教育分科会及び教授会で審議した結果を2020年度からカリキュラムに反映した。	
今後の計画	
カリキュラムの効果的な改訂に反映させるべく委員会を活性化させるとともに系統的な統合教育を推進するため更なる充実を図っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
⑥令和4年度教授要目（カリキュラム時間別配当用 専門教育科目）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ教育分科会、カリキュラム委員会などの位置づけと役割を明確にすべき。 ・カリキュラムの立案と責任を持つ委員会の構成員に、学生の代表を正式のメンバーとして加えるべき。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの評価機能が脆弱であったことから、教育分科会の機能を強化し、カリキュラム委員会に対して問題点や改善の方向性を提言できる体制を継続している。 ・2019年度からは、カリキュラム委員会の構成員に3名の学生委員を追加することにより、学生の意見も取り入れ、審議に反映させている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校における医学教育に関する方向性やカリキュラムについて改善を図るべく、医学教育全般に関して総合的に判断できる医学教育学専任教授を2021年度に採用した。 ・組織の整備に必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続を引き続き行っていく。 ・カリキュラム委員会における学生委員との意見交換をさらに活性化し、現行カリキュラムの効果的な改訂に反映させるべく委員会の更なる充実を図っていく。 	
改善状況を示す根拠資料	

改善した事項

2. 教育プログラム	2. 7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの実施と立案に責任を持つ委員会に、教官と学生以外の教育の関係者を含むことが望まれる。	
改善状況	
「医学科のカリキュラム委員会に関する達」でカリキュラム委員会の構成員として、教官及び学生以外に、関連の自衛官が構成員となっている。	
今後の計画	
更なる構成員の多様性がどうかについて、カリキュラム委員会及び教育分科会で引き続き検討を行う。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
卒前教育プログラムと卒後の研修プログラムを管理する部署が協議し、卒前教育の到達目標（卒業時コンピテンシー）と研修における到達目標（初任実務研修行動目標）との整合性を整えるべき。	
改善状況	
本校の教育スタッフと卒後の人事管理を行うことになる各自衛隊との情報共有や連携は十分保たれているが、卒前・卒後の連携強化において重要な事項や、本校卒業医官の特性について相互に遺漏無く対応できるよう、引き続き緊密に連携しつつ検討を継続している。	
今後の計画	
卒前・卒後の運営連携を如何に強化していくか、また、卒後の研修医官について各自衛隊と如何に連携を強化していくかについて、検討する枠組みを整備していく必要がある。このため、連携強化で得られる利点を、学生教育に如何に反映させるかについて効果的かつ具体的な方策を引き続き検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2. 8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの実施と立案に責任のある委員会が卒業生の勤務する自衛隊病院等からの意見を取り入れて、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。	
改善状況	
卒後の勤務環境との関連から、各自衛隊病院等と緊密に連携し、適切な改良に向けた検討を実施している。	
今後の計画	
教育プログラムを改正する必要性が生じた場合は、カリキュラム委員に各自衛隊の衛生担当者を加えることにより、卒業生が将来活動する環境に関する情報を収集して、教育プログラムを適時適切に改良できるよう、引き続き検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学内で行われている評価を教育実施者以外の専門家によって精密に吟味すべきである。 ・「訓育」の評価を学生にフィードバックし、学生の成長に反映させるべきである。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・変化する医学教育の動向を注視しつつ学内における評価を分析し、本校の医学教育の向上につなげていくため、2021年度に医学教育学専任教授を採用した。特に臨床実習におけるWBA（Workplace-based-assessment）の実施についてアンケート調査を行い問題点・障壁に把握に努めている。 ・2022年10月に医学教育部付准教授を配置し、医学教育に係るデータ収集及び分析（IR活動）を行う基盤を整備した。 ・組織を設置するための体制整備について、必要な予算措置の実現可能性との整合性を図りつつ引き続き検討している。 	
今後の計画	
<p>医学教育に係るデータの収集及び精密な評価・分析を実施するため、教育に特化した専門の人材を有した組織を整備すべく必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し明示することが望まれる。 ・外部評価者の利用を更に促進することが望まれる。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学内試験、総合試験の評価方法の妥当性を高めるため、医師国家試験の成績を活用することとし、平成30年度医師国家試験から受験者全員の得点をモニタしている。 ・4学年時のCBT、4学年時及び6学年時のOSCEについては、外部の専門家を活用して実施しており、また、部外実習を実施している小児科及び精神科は、実習先医療機関の医師による学生の評価を実施している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年進級試験問題、第6学年総合試験問題の識別指数を活用することにより、評価方法の信頼性と妥当性を向上させることが可能か、総合試験調整解析グループ委員会において検討していく。 ・本校の各種評価方法に関して、外部の評価者を活用できるよう検討していく。 ・CC-EPOCの機能にある患者等部外者も評価する360°評価について活用を検討する。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が学修成果を達成しているかを評価するシステムを構築すべき。 ・ 学生の成長を促す形成的評価の実効的な導入をすべき。 ・ ポートフォリオやMini-CEXなどを活用して、診療参加型臨床実習の評価を確実に行うべき。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の学修成果の達成について、出席状況、レポート、グループ学習発表、小テスト等により、カリキュラム単位で形成的評価を実施して学生の学習を促進し、本試験などの総括的評価とともに総合的・多角的に評価が行われている。 ・ 臨床実習においては、各臨床科で知識及び技能や態度の評価を形成的かつ確実にを行っている。 ・ 2022年2月より、CC-EPOCにおける基本的臨床手技やEPAの評価、Mini-CEXなどを実施している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年度に運用が開始されたCC-EPOCを活用してMini-CEXやCbDによる評価を推進し、臨床実習実施時の学生の評価を形成的かつ確実に実施するとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させたい。 	
改善状況を示す根拠資料	
⑤基本的臨床手技等登録数推移（令和4年度）	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3. 2 評価と学修との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>学生に対して評価結果に基づいた時期を得た具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>学生に対して、評価結果に基づき時宜を得て、公正かつ具体的なフィードバックが建設的かつ適切に行われていると考えるが、学習進度が異なる学生個々に、どのようなフィードバックを行うことが適切か検討を行っていく。</p>	
今後の計画	
<p>以下の内容について、カリキュラム委員会、教授会等で検討し本校医学科各教員間に具体性のあるコンセンサスを形成するよう検討していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対するフィードバックの適切な時期と方法 2. 学生評価のための適切な試験方法と時期 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4. 1 入学方針と入学選抜
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
入学方針を定期的に見直すことが望まれる。	
改善状況	
本校は防衛省・自衛隊の状況や卒後ニーズに応じた入学者の選抜を行っており、入学方針についても、状況に応じて随時見直していく。	
今後の計画	
2021年度から採用試験の見直しを開始した。将来の自衛隊医官として求められる素養を持った者をより適切に選抜できる方法となるよう、更に継続して見直しを行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4. 3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学習支援と学生支援の連携を促進すべきである。	
改善状況	
第5学年以上の学生については、臨床実習の班単位にチューターを配置することにより、各学生の学内試験及び模試の成績、学習態度等を掌握するとともに、学習の進捗状況等を確認して必要に応じた綿密な指導を実施している。2020年度からは担任教官制度を発足させ、学生の学習面、生活面における更なる指導を実施し、学習支援と学生支援の連携を図っている。	
今後の計画	
随時、教官チューター及び担任教官制度の見直しを行い、実効性の高い指導を行えるよう改善していく。	
改善状況を示す根拠資料	

改善した項目

4. 学生	4. 4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生を正式なメンバーとして教育プログラムの策定、管理、評価に関わる委員会に参画させるべき。	
改善状況	
防衛医科大学校のカリキュラムを改訂する際に学生の意見も反映できるシステムに改善するため、カリキュラム委員会に学生を参画させられるよう、規則の改正を行った。	

今後の計画
教育に関わる検討事項に学生の立場から問題点や要望を表明し、教官にフィードバックする機会をより充実するよう、引き続き検討していく
改善状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4. 4 学生の参加
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
国際交流のシステムを拡充し、より多くの学生が海外研修に参加できるようにすることが望まれる。	
現在の状況	
自衛隊医官候補生として、使命感の向上に資するとともに、国際的視野の拡大及び勉学意欲の向上を図ることを目的として、第3学年及び第5学年を対象に海外研修要員を選考し海外研修を実施している。さらに、学生が休暇を利用して主体的に海外の学会及び病院研修に参加することを奨励している。	
今後の計画	
多くの学生が海外研修に参加できる環境の醸成に引き続き取り組んでいく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5. 2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教官全体がカリキュラムの全体像を把握し、理解して教育を行うべきである。 ・教官の教育能力開発を目的とした研修会を拡充し、参加を促すべきである。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会を含む教育関連委員会で議論された内容や、カリキュラムの状況と方向性について、教授会を通じて個々の教官に周知徹底している。 ・医学教育ワークショップやFDセミナーにおける討論などを通じて、個々の教官のカリキュラム理解の充実を図っており、教授会等を通じて積極的な参加を促している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教官にカリキュラムの改訂や新たな試みなどの最新の医学教育に関する情報を教授会等の機会を通じて、適時・適切に周知していく。 ・教官等の教育意欲の向上や教育技法の習得を目的として、医学教育ワークショップやFDセミナーの充実・拡大を検討していく。 ・アウトカム基盤型カリキュラムの運用と教員の理解度の分析・評価を専門的に行い、教育に特化した情報の収集、分析及び発信を行う組織の整備について必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。 	

改善状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 1 施設・整備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
PBLなどのアクティブラーニングを実施するために、必要な少人数グループ学修が行えるよう学修環境を更に整備すべき。	
改善状況	
定期的な建物・設備の点検、教育研究用器材等の導入に伴う設備の増改修を実施し、必要な少人数グループ学修に対応している。	
今後の計画	
本校の主要な建物は老朽化しており、今後10年程で耐用命数を迎えることから、教育や研究環境を考慮した機能別集約や立体化など段階的に建替計画を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 1 施設・整備
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学生や教官、事務官からの要望をもとに教育環境の向上を図る仕組み作りが望まれる。	
改善状況	
学生や教官からの要望をもとに、器材及び既存の施設の増改修について必要な予算要求を行い、可能な範囲で教育環境の改善を実施している。2020年度には病院内に学生の自習スペースを整備するとともに、専用のPCを設置した。さらに、一部の教場にE-learningシステムを活用できるPCを整備した。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生や教官からの要望をもとに、教育環境の向上に向けて、教育に特化した情報の収集と発信を一元的に行う組織を設置することについて必要な予算の査定が早期に得られよう、要求手続きを実施していくとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させる。 ・中長期的には、防衛医大改革推進・機能強化検討委員会において学習環境の更なる向上を図っていく。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が経験すべき疾患分類を定義し、それに基づいて一人一人の学生の受け持ち患者数を把握すべき。 ・防衛医官が身に付けるべき臨床能力を定義し、その能力を開発するための臨床実習施設を確保すべき。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・CC-EPOCの導入により、学生が経験すべき症候・疾患について、学生の受け持ち状況（疾患分類、受け持ち患者数）の把握が可能となった。 ・病院で学生が行う臨床実習において必要症例数を担保するため、シミュレーション・ラボ及びアナトミー・ラボを開設し教育環境の充実を図った。 	
今後の計画	
防衛医官が身に付けるべき臨床能力の開発のための臨床実習施設として、シミュレーション・ラボやアナトミー・ラボの利用増大を図るとともに、カリキュラムに反映させることの是非等について、引き続き検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
③CC-EPOC登録数推移（令和4年度） ④症候別CC-EPOC登録症例数（令和4年度）	

改善した項目

6. 教育資源	6. 3 情報通信技術
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修を促進するために、インターネットなど情報通信技術の利便性向上を目指した環境を整備すべきである。	
改善状況	
学生や教官からの要望をもとに、情報通信に関する器材及び既存の施設の増改修について必要な予算要求を行い、可能な範囲で教育環境の改善を実施している。2020年度には病院内に学生の自習スペースを整備するとともに、専用のPCを設置した。さらに、一部の教場にE-learningシステムを活用できるPCを整備した。	
今後の計画	
防衛医大改革推進・機能強化検討委員会において学習環境の更なる向上を図っていくとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させる。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 3 情報通信技術
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己学習用のe-learningシステムと端末の更なる拡充が望まれる。 ・学生の電子カルテの利便性向上に向けたハードウェアのよりいっそうの整備が望まれる。 	
改善状況	
<p>学生や教官からの要望をもとに、E-learningに関わる器材及び既存の施設の増改修について必要な予算要求を行い、可能な範囲で教育環境の改善を実施している。2020年度には病院内に学生の自習スペースを整備するとともに、専用のPCを設置した。さらに、一部の教場にE-learningシステムを活用できるPCを整備した。</p>	
今後の計画	
<p>防衛医大改革推進・機能強化検討委員会において学習環境の更なる向上を図っていくとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させ、学生の電子カルテの利便性向上に向けたハードウェアの整備を図って行く。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 5 教育専門家
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育の専門家として意欲ある教官を育成し活用すべきである。	
現在の状況	
<p>医学教育指導者フォーラムや日本医学教育学会等に参加する教官数はいまだ限られていることから、2021年度に医学教育の知見を有した医学教育学専任教授を採用した。これに引き続き、2022年度には、IR活動を専従で行う教官として医学教育部付准教授を配置した。今後も組織を設置するための体制整備について、必要な予算措置の実現可能性との整合性を図りつつ引き続き検討している。</p>	
今後の計画	
<p>アウトカム基盤型カリキュラムの運用と教員の理解度の分析・評価を専門的に行い、教育に特化した情報の収集と発信を行う教育の専門家からなる組織の設置を実現するため、必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6. 6 教育の交流
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の医育機関との交流をよりいっそう促すことが望まれる。 	
現在の状況	
<p>医療関係者が連携した合同講義を実施し教官及び学生間の交流を行うことにより、プロフェッショナルリズムの涵養及び医学教育に対する取り組み・視野の拡大が期待できることから、本校看護学科及び近傍に所在する教育機関との国内交流の実現に向けた検討を実施した。</p> <p>2021年度からは、本校の看護学科及び他大学薬学科との提携による多職種連携教育をカリキュラムに組み込み、実施している。</p>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の看護学科及び他大学薬学科と合同で実施している多職種連携教育を充実・強化するとともに、更なる他校との取り組みの実現について努力していく。 	
⑦R4 I P E実施報告書 (5.2.17)	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>教育課程と学修成果をモニタする I R機能を充実させ、6年間の I R機能を充実させ、6年間のカリキュラム全体の学びやすさや学びにくさを精査するためのカリキュラムに関するアンケート（学生及び教官対象）を定期的実施し、分析すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに関するアンケートの結果に基づいて、カリキュラムの主な構成要素を評価し、課題の発見と改善につなげるべきである。 	
現在の状況	
<p>カリキュラムの学修成果については定期的にモニタしてきたが、教育課程のモニタについては必ずしも十分でなかったことから、教育分科会にモニタ機能を一元化している。カリキュラムに関するアンケートについては、卒業時や各科目が終了した時点でWeb上に回答を送信させており、これらを進学課程の教授と各系の責任者にフィードバックし、カリキュラムの評価及び課題の発見につなげ、教育内容の向上に努めている。</p>	
今後の計画	
<p>カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタできるプログラムを整備し、学修成果の分析・評価を実施する教育に特化した専門の組織の設置について必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
特色ある教育活動、卒後の長期にわたる人材育成、社会的・国際活動などについて、使命に沿って評価するための体系を構築することが望まれる。	
現在の状況	
各自衛隊との卒前・卒後の連携強化について検討する枠組みを整備することを検討している。	
今後の計画	
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価を行うシステムを構築することを目的として、教育に特化した専門の組織を設置するため必要な予算の査定が早期に得られるよう要求手続きを引き続き行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・より体系的に、学生と教官からのフィードバックを収集し分析すべきである。 ・全寮制のメリットを活かして、学生と教官からのフィードバックを収集し、教育関係の委員会活動や生涯学習のシステムに反映させる仕組みを構築すべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生を対象とする授業アンケートによる結果を教官にフィードバックする体制は構築したものの、教官からのフィードバックは十分ではないことから、教官に対するカリキュラムアンケートを実施し今後のカリキュラム改編に役立てられる体制を整備できるように具体化に向けて検討している。 ・全寮制であることから、学生の要望について比較的得やすい体制となっている。 	
今後の計画	
講義や実習に関するフィードバックを系統的に収集する持続可能な体制を構築していくとともに、現在検討中であるアクティブラーニングシステム導入を前進させたい。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
フィードバックの結果をカリキュラムの改善に活用することが望まれる。	

現在の状況
新しいカリキュラム実施を目指して、カリキュラム委員会の下部組織としてカリキュラム検討ワーキンググループを設置し、アンケート結果の反映や意見聴取などを実施するよう検討している。
今後の計画
カリキュラムの改訂においては、アンケート結果等がどのように活用されたのかをカリキュラム委員会に報告する体制を構築していく。臨床実習中の学生による医療過誤、不適切対応に関してもインシデントレポートシステムを活用する体制を構築し、その結果を臨床実習プログラムの改編に反映させていく。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業の情報が把握しやすい特性を活かして、より長期的な卒業生の情報把握を行うべきである。 ・学生と卒業生の実績の分析結果から、現在の使命、学修成果、カリキュラム教育資源の問題点を自己評価し、改善につなげるシステムを構築すべきである。 	
現在の状況	
各自衛隊病院等との卒前・卒後の連携強化について、長期的に情報を把握し、問題点等を改善する枠組みを整備することについて緊密に連携しつつ検討している。	
今後の計画	
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価を行うシステムを構築することを目的として、教育に特化した専門の組織を設置するため必要な予算の査定が早期に得られるよう、要求手続きを引き続き行っていく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
使命に沿った人材を集めるために、学生の背景、入学前の学業成績などを分析し、学生の選抜方法、カリキュラムの改善に役立て、卒業するまでの支援体制を確立することが望まれる。	

改善状況
入学時の成績、志望動機、在校中の成績、医師国家試験の成績の相関関係を分析し、学生選抜やカリキュラムの改善にフィードバックできるよう検討している。
今後の計画
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容にするための分析・評価を行うシステムを構築することを目的として、教育に特化した専門の組織を設置するため必要な予算の査定が早期に得られるよう、要求手続きを引き続き行っていく。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育改善のPDCAサイクルを回す体制を整備すべきである。 ・自衛隊衛生部門との交流をより促進し、プログラムのモニタと評価に活用すべきである。 	
改善状況	
教育改善のPDCAサイクルを回す体制整備に関する検討を深化させるとともに、カリキュラムに対する防衛省本省、各自衛隊衛生部門からのフィードバックを得ることを目的とした卒前・卒後の連携強化に関する枠組みを整備することについて緊密に連携しつつ検討している。	
今後の計画	
PDCAサイクルを回す体制を整備すること及び本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容に改善するための分析・評価を行うシステムを構築することを目的として、教育に特化した専門の組織の設置を目指している。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7. 4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
防衛省関係者だけでなく、自治体関係者、自衛隊病院関係者、患者、模擬患者等の協力者などから幅広く教育プログラムに関する意見聴取を行うことが望まれる。	
改善状況	
教育プログラムに関する評価について、防衛省関係者以外の者との意見聴取等を行う枠組み等について検討している。	

今後の計画
臨床実習時の患者に対するアンケート、OSCE時の模擬患者の評価をカリキュラムに反映することについて検討する。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄及び管理運営	8. 4 事務と運営
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育プログラムの管理運営に関わる評価を定期的に行う組織や制度を構築することが望まれる。	
改善状況	
医学教育の最新の動向に合わせた教育の充実・向上を図るため、本校の教育プログラムの検証・分析を実施し、教育改革を計画・立案するための体制を整備することについて、現状のカリキュラム委員会の体制に加えて、必要な予算措置の実現可能性との整合性を図りつつ検討している。	
今後の計画	
本校の使命と卒業時のアウトカム達成に適した教育内容に改善するための分析・評価を行うシステムを構築するため、教育に特化した専門の組織の設置を目指している。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
継続的改良のために資源を配分し、教育プログラムを自己点検し改善するPDCAサイクルを回すべきである。	
改善状況	
学修成果／コンピテンシー評価の継続的な改良に関しては、定期的な自己点検及び改善に係る情報の収集が十分になされているとは言えないことから、教育体制全体を統合的に分析する専門の組織を設置することについて必要な予算措置の実現可能性との整合性を図りつつ検討している。	
今後の計画	
自己点検と改善に係る情報の収集等を行い、データの分析・処理方法について見直しを行い、教育プログラムの自己点検及び改善を行うPDCAサイクルの実現のため、教育に特化した専門の組織を設置することを目指している。	
改善状況を示す根拠資料	